令和４年度自己評価計画書

石川県立田鶴浜高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　　考
1 不断の授業改善により、生徒の主体的な学びを高め、３年間・５年間を見通した学力・技術の向上を図るとともに、国家試験全員合格を目指す。	① ＩＣＴ機器を活用したり、授業形態を工夫したりすることで生徒の主体的な思考を促す。	教務課	知識・技能を身に付けることに意欲的な生徒が多い。獲得している知識から推測することや、新たな状況に応用できる、思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。	【努力指標】 思考や表現の場面を適切に設定している。	「先生は、考えたり、表現したりする機会を設けている」と評価した生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　である。	Ｃ以下の場合は、授業形態、授業内容を再検討する。	生徒による授業評価を７月・１２月に実施する。
	② １人１台端末を活用し、主体的な思考を促す発問や学習課題を提示することで自ら学ぶ意欲を高める。	教務課	生徒は１人１台端末の操作が概ねできている。ＩＣＴの効果的な活用が、確かな学力の定着に繋がることを実感している生徒は多いとはいえない。	【満足度指標】 生徒の主体的な学びを促すＩＣＴ活用場面を適宜設定し、生徒が学力の定着を実感している。	「ＩＣＴを活用することで自分の学力は向上した」と自己評価した生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７５％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　である。	Ｃ以下の場合は、ＩＣＴ活用場面や方法を再検討する。	自分自身の学習の取り組みに対する評価を７月・１２月に実施する。
	③ 専門教科の知識・技術の確実な定着を図るため、目標レベルに達するまで補習・個別指導を実施する。	衛生看護科 専攻科	国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。 国家試験演習で、本校が目標とするレベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 看護師国家試験演習の偏差値の目標レベルを全生徒が達成している。 【成果指標】 〈専攻科１年生〉 基礎力を確認する看護師国家試験演習の専門科目の偏差値４０未満の生徒が０人である。	偏差値４０未満の生徒が Ａ　０人 Ｂ　１～２人 Ｃ　３～４人 Ｄ　５人以上　　である。 〈専攻科１年生〉 偏差値 40 未満の生徒が Ａ　０人 Ｂ　１人 Ｃ　２人 Ｄ　３人以上　である。	Ｂ以下の場合は、個別指導を行う。 Ｂ 以下の場合は、個別指導を行う。	看護模試（全国）を実施し、評価する。 看護模試（校内・全国）を実施し、評価する。

					〈専攻科２年生〉 看護師国家試験演習の専門科目の偏差値４０未満の生徒が０人である。	（専攻科２年生） 偏差値 40 未満の生徒が Ａ　０人 Ｂ　１人 Ｃ　２人 Ｄ　３人以上　である。	B 以下の場合は、個別指導を行う。	看護模試（全国）を実施し、評価する。
		④	＜１年生＞ 課題提出の期限を守ることができていない生徒に対して個人面談を実施し、期限内に課題を提出できるようにする。 ＜２年生＞ 毎日の課題をチェックすることで、家庭学習を習慣化する。 ＜３年生＞ 分野ごとの小テストや個別指導を実施し、専門知識の確実な定着を図る。	健康福祉科	＜１、２年生＞ 家庭学習が充分に習慣化していない。 ＜３年生＞ 国家試験演習で一定レベルに達していない生徒がいる。	【成果指標】 ＜１年生＞ 期限内の課題提出ができる生徒の割合が９０％以上である。 ＜２年生＞ 家庭での学習時間が昨年より０．５時間増加した生徒の割合が８０％以上である。 ＜３年生＞ 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率６５％以上の生徒の割合が１００％である。	＜１年生＞ 課題を提出する生徒の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　である。 ＜２年生＞ 家庭での学習時間が昨年より０．５時間増加した生徒の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満　である。 ＜３年生＞ 国家試験演習及び国家試験の個々の得点率６５％以上の生徒の割合が Ａ　１００％ Ｂ　９５％以上 Ｃ　９０％以上 Ｄ　９０％未満　である。	＜１年生＞ Ｃ以下の場合は、個別指導を行う。 ＜２年生＞ Ｃ以下の場合は、個別指導を行う。 ＜３年生＞ Ｃ以下の場合は、取り組み方法を検討する。	月毎に結果を確認する。 家庭学習時間を調査して昨年度と比較し、その集計を月毎に行う。 国家試験演習毎に結果を確認する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　　考
2 本校の学びを通して、看護師・介護福祉士に求められる健康な心身とコミュニケーション力の育成を図る。	① 「田鶴浜高校いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめのない学校作りを推進する。	生徒指導課 教育相談課	「いじめを絶対許さないという意識」を持つ生徒は多いが、人間関係のトラブルが起こる可能性は様々なところにあり、生徒の「いじめ防止」への意識は常に持たせなければならない。	【成果指標】 講演会や授業等で人権教育の啓発を行うことで、生徒の「いじめを絶対に許さないという意識」が高まっている。	生徒アンケートで「互いの人格を尊重し、いじめを絶対に許さないという意識」について、「大いに高まった」と「高まった」の回答が Ａ　９５％以上 Ｂ　８５％以上 Ｃ　７５％以上 Ｄ　７５％未満　　とする。	Ｃ以下の場合はいじめの未然防止の取組の見直しをする。	９月、１月に全校生徒を対象とした「いじめ意識アンケート」を実施する。
	② 立ち止まって丁寧に挨拶をすることができるよう継続指導する。	生徒指導課	立ち止まって目上の方に敬意をもって挨拶するという指導をしているが、その習慣の定着を図るため継続した指導が重要である。	【成果指標】 保護者アンケートで「立ち止まって挨拶している」の回答が９０％以上である。	保護者アンケートで「立ち止まって挨拶している」の回答が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　　とする。	Ｃ以下の場合は取組・指導法の見直しをする。	７月、１２月の保護者懇談会の際にアンケートを実施する。
	③ 運動行事の事前練習やケガ予防、放課後活動の活性化のため、合同部活動を実施する。	生徒会	運動行事のルールの定着不足、審判担当生徒の経験不足がある。 実習などで、部活動の参加人数が減少する時期がある。	【満足度指標】 合同部活動を実施し、生徒がその活動に満足感を得ている。	合同部活動後のアンケート結果で満足と答えた生徒が Ａ　８０％以上 Ｂ　６０％以上 Ｃ　５０％以上 Ｄ　５０％未満　である。	Ｃ以下の場合は、来年度に向けて、時期や方法を検討し直す。	実施競技は生徒会を中心に考える。合同部活動後のアンケートで判断する。
	④ 心身が健全で粘り強い生徒の育成を目指し、毎授業で３分間走、サーキットトレーニングを行う。	保健体育科	体力テストの結果、昨年春から秋にかけて生徒個々の記録の向上がみられたが、２０ｍシャトルランにおいて県、全国と比較し劣っている。	【成果指標】 新体力テスト種目の２０ｍシャトルランを春と秋の２回計測し、秋の記録が春より向上している。	秋の記録が春より向上している生徒が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満　である。	Ｃ以下の場合は、来年度に向けて、指導方法を検討し直す。	計測は体育時に行う。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　　考
3 本校の特色ある教育活動や、地域の医療･福祉を支える人材の必要性等の広報に努め、志願者の増加を図る。	① 体験入学、学校説明会の内容を充実させるとともに、情報誌、ホームページ、ＩＣＴなどを活用し本校の教育活動とその成果の広報を強化する。	教務課	志願者を確保するため、教育活動や魅力・成果等の広報に取り組んでいるが、保護者・志願者に十分に伝わっていない。	【最終成果指標】 昨年度より本校の志願倍率が上回っている。	一般入試の志願倍率（学校倍率）が１．００倍を Ａ　上回った。 Ｂ　同程度だった。 Ｃ　下回った。 Ｄ　大きく下回った。	Ｃ以下の場合は、広報活動の方法の見直しをする。	
	② ホームページ、産業教育フェア、体験入学、学校説明会、出前授業、生徒の母校訪問などを通して、衛生看護科の魅力を発信する。	衛　生 看護科	５年一貫教育における看護師養成について、中学校教諭及び保護者、生徒の理解が十分とは言えない。	【成果指標】 中学校教諭及び保護者、生徒が、本校の５年一貫教育による看護師養成教育について理解している。	体験者アンケートで「５年一貫教育による看護師養成教育の理解が深まった」の回答が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満　　である。	Ｃ以下の場合は、広報活動の方法の見直しをする。	産業教育フェア、体験入学、学校説明会、出前授業などの際、その都度アンケートを実施する。

		③	情報誌やホームページによる本校の情報発信に加え、ICT を活用した健康福祉科の教育活動や魅力の発信をする。	健康福祉科	健康福祉科の教育活動や魅力について、小・中学生やその保護者、小・中学校関係者の理解が十分であるとは言えない。	【成果指標】 小・中学生やその保護者、小・中学校関係者が、健康福祉科の教育活動や魅力について理解している。	体験者アンケート等で、「健康福祉科に対する理解が深まった」という人数の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８５％以上 Ｃ　８０％以上 Ｄ　８０％未満　である。	Ｃ以下の場合は、発信内容や発信方法の見直しをする。	教育活動毎にアンケート等を実施する。
重点目標		具体的取組		主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備　　考
4	ＧＩＧＡスクール構想に基づいた教職員･生徒のＩＣＴ活用を定着させるとともに、業務の効率化を進め、多忙化の解消に努める。	①	時間外勤務を減少させるため、ＩＣＴ活用の定着を図りながら業務の効率化を進める。	GIGA管理職	昨年度の時間外勤務の平均が４５時間未満である教員の割合が，６８．０％でありＢ評価であった。	【努力指標】 多忙化改善とワークライフバランスの見直しのため、ＩＣＴ機器を活用するなどして学校業務の平準化を図ることで、時間外勤務時間が縮減している。	具体の取組を積極的に進め、一月あたりの時間外勤務時間が４５時間未満の教員の割合が、 Ａ　７５％以上 Ｂ　６５％以上 Ｃ　５５％以上 Ｄ　５５％未満　である。	Ｃ以下の場合は、改善方法を再検討する。	毎月の勤務時間記録をもとに判断する。